

「外国人旅行者向け情報発信の強化」部会
進捗状況報告

1. 部会の開催

第2回部会開催要領

- 日 時 : 平成28年6月24日(金) 13:30~15:30
場 所 : 於・ウトロ漁村センター2階会議室
議事等 : 以下のとおり

議事1. 部会の方針について

現地着地後の外国人旅行者(特に個人旅行者)を対象に、以下のコンテンツ案とコンセプトに基づき情報ポータルサイトの整備・運営に取り組むことで合意。

○コンテンツ案

- ・ 国立公園内の施設、観光船、トレイルなどの開閉・運用等の状況が一覧できるトップページ。
- ・ 各発信者の最新情報へのリンク。
- ・ 両町の観光コンテンツをつなぐモデルコースの発信。

○コンセプト

- ① 着地後の個人利用者を対象とする。
 - ・ 既に行われている両町、各事業所によるインバウンド招聘等、戦略的な情報発信と重複や競合の少ない対象として、着地後の個人旅行者を対象とする。
- ② 両町の観光コンテンツをつなぐ。
 - ・ 既に活発に活動している各事業所の発信を活用する。
 - ・ 知床半島両サイドの自然環境・文化の多様性を体験することを促す。
 - ・ 登山道など、両町にまたがるコンテンツの有効な情報発信を目指す。
- ③ 施設を活用する。
 - ・ 知床財団が運営している各施設(知床自然センター、羅臼ビジターセンター、知床五湖フィールドハウス、ルサフィールドハウス)の運営とリンクし、利用者へのサービスに活用する。
 - ・ 上記以外の施設でも活用できるよう公開を目指す。

議事2. 知床における外国人旅行者の動向

斜里町については平成23~27年度の動向を、羅臼町については平成23~26年度の動向を、それぞれ参考資料1にまとめ、共有した。

議事3. 知床情報玉手箱(利用施設最新情報ボード)構築事業について

参考資料2に基づき、質疑応答・意見収集を行った。主な意見等は以下のとおり。

○利用施設最新情報

- ・ 階層構造の整理や峻別、見せ方の工夫が必要。例として、「もっと見る」で階層を落とすもの、既存の URL にリンクを張ることで対応可能なもの、「備考」的に同じページ内に簡単に補記することで理解の促進が可能なものなどに分けて整理する。
- ・ 当面のデータ更新は、従来通り知床財団が事業者からデータを得て行う体制で臨む。

○日刊ヒグマ情報

- ・ 公園利用者に対する、信頼性と速報性を兼ね備えたヒグマ情報の提供を4月中旬から開始した。具体的には、知床自然センターにおいて毎朝レクチャー形式で情報提供を実施しているもの。これは、利用の促進や抑制が目的ではなく、利用者が自らの行動を意思決定する材料を提供することを目的とする。
- ・ 同じ目的のもと、ポータルサイト上での同様の情報公開も検討したが、環境省などから、ヒグマを見たい利用者を特定の場所に引き寄せてしまう動きを助長・加速させるのではないかと、強い懸念が示されたことを受け、情報玉手箱サイトからは除外することとした。

○週刊登山道情報

- ・ 更新のための情報収集は、林野庁（GSS）のほか、山岳会の一部の会員に対し協力を依頼した。また、木下小屋との連携、ガイド事業者からの情報提供（すでにある程度実現）のほか、クマスプレー等をレンタルした登山者を対象として、返却時のアンケートを実施する。

2. サイトの運用

2016年8月1日、試作版の運用を開始！

日本語版 <http://center.shiretoko.or.jp/i-box/>

英語版 <http://center.shiretoko.or.jp/i-box/english.html>



○網羅している情報（スマホを前提としたレイアウトだが、パソコンでも閲覧可。）

- ・ 散策路の状況（開閉情報など）
- ・ 観光船運行状況
- ・ バス運行状況
- ・ 施設開館情報
- ・ 道路開通情報
- ・ 週刊知床登山道情報

○今後の予定

- ・ 今年は基礎的な情報部分を主に地域の観光関係者に使ってもらい、その過程で示される意見を反映するなどして機能追加・改良していく。
- ・ 来年の夏にはパンフレット等の紙媒体によるサイト周知に向け、プロモーションを行う予定。

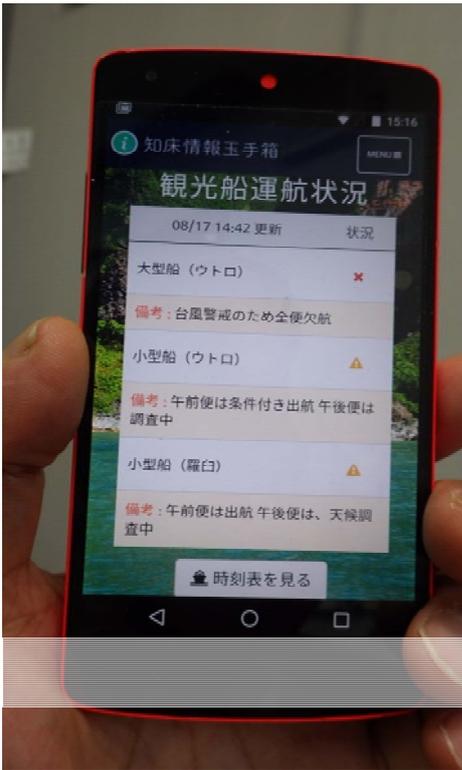


写真 1. スマホで表示した「観光船運航状況」(日本語)

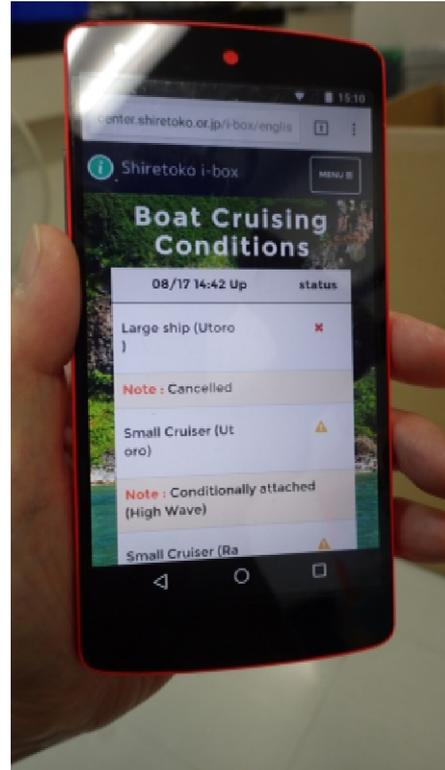


写真 2. 同左英文表示

○運用に関する今後の課題

運用開始後、約半月経過時点での課題には、以下のようなものが挙げられる。

- ・ 推奨されるルールなどについて、英文のリンク先がない。例えば、携帯トイレについては、携帯トイレとは何で、なぜ必要で、どのように使用するかなどとともに情報提供することが効果的な普及につながると考えられるが、和文に関してはおおむね情報を網羅したリンク先があるものの、英文では適当なものがない。「シレココ」や「ストップ！えさやり」についても、同様に英文のサイトがない状況である。
- ・ カムイワッカ地区のように、エリア内のサービスや施設に複数の管理者が関わっている場合 (例：バスに関すること、道路に関すること、滝の状況に関すること等)、管理権限等を超えて一元化した情報提供が困難であり、調整が必要。
- ・ 登山道のグレーディング表示は未着手。既存の本州のもの（長野・山梨・岐阜・新潟）に準拠しようとする、「距離×標高差×時間」という公式に当てはめることから、登山道の整備状況にバラつきがある北海道においては、実際よりも難易度が低くなるという課題にぶつかる。環境省・林野庁が主導的に取り組んでいる「大雪山グレード」に準拠すると、北海道の実態に合い、大雪と知床で同じグレード表示をすることで「広報効果」も考えられる。いずれにしろ世界の山を歩いてきた人に分かりやすいものを目指す。

- ・ 夜間の情報更新に対応できていない。日付が変わっても、更新作業者が出勤・稼働するまでの間は、前日の情報が表示されているため、その間に閲覧した利用者が前日の情報を見てしまい、誤解する可能性がある。
- ・ 羅臼ビジターセンターの夏期（7～9月）の月曜開館のように、季節限定的な情報については、都度の手入力に対応せざるを得ない。

3. 提案の進捗

当初提出した提案書（参考資料3）に記した「基本的提案内容」についての進捗は以下のとおり。

- ① 情報発信戦略会議を立ち上げ、発信メディアを作成、運用する。
 - ・ 「知床情報玉手箱」の運用を開始した。
 - ・ キャッチフレーズの決定については、各町それぞれのブランド戦略がすでに進行中であることに鑑み、統一キャッチフレーズの設定は長期的なものとして位置づけた。
- ② フロントカントリー（自然センター周辺）での情報提供
 - ・ 自然センターがリニューアル開館（4/20）し、各種情報提供を開始した。
 - ・ 「日刊ヒグマ情報」の発信をレクチャーという形で開始した。
 - ・ 新規遊歩道の設置については、現時点で進捗なし。
- ③ バックカントリー（奥山エリア）での情報提供
 - ・ 「知床情報玉手箱」内における「週刊知床登山情報」の運用を開始した。